

海外事務所だより

シンガポール事務所

「ありがとう」—感謝を込めて！ マレーシア盆踊り大会

シンガポール事務所所長補佐 小島 悠可(仙台市派遣) 伊藤 裕子(浜松市派遣)

マレーシアのアツい夜

夜空に響き渡る太鼓の音、広い競技場の中央に築かれた櫓、色とりどりの浴衣……。日本の夏を代表する光景が、今年もマレーシアで盛大に繰り上げられました。

2011年7月16日(土)、今年35回目となる、「盆踊り大会」。会場となったクアラルンプール郊外のスポーツ競技場は、開場と共にまたたく間に人の波で埋め尽くされました。

今回は、マレーシア・シャーアラーム市から、盆踊り大会の様子を紹介します。



マレーシア シャーアラーム市

祭だ、祭だ、盆踊り！

開場時間の夕方5時。会場に詰めかけた多くの参加者は、明るいうちから敷物を持参して場所を取り、屋台で買った食べ物や飲み物を手におしゃ



屋台の飲物や食べ物を楽しむ参加者たち

べりをして思い思いの時間を過ごしています。屋台では日本のカキ氷やたこ焼き、巻き寿司などが、マレーシアの地元の食べ物と一緒に仲よく並べられています。屋台の周りは、盆踊り大会の開場から終了まで、お客さんでにぎわっています。

夜7時、和太鼓パフォーマンスを皮切りに、いよいよ盆踊りの始まりです。場内には東京音頭、大東京音頭、花笠音頭、おひさま音頭(クアラルンプール日本人学校オリジナルソング)のメロディが響き渡り、会場の中央・メインステージとなる櫓の上では、クアラルンプール日本人学校と当地の中学校の生徒らが盆踊りを披露します。それをお手本に、来場者は見よう見まねで日本の郷土舞踊を楽しみます。来場者は熱心に体を動かし、ただでさえも熱い会場は、尋常ではない熱気に包まれていました。一曲終わるたびに拍手喝采の大



熱狂的な盆踊りの渦

盛り上がりで、フィナーレではラストダンスのアンコールがかかったほどです。

サブステージでは、クアラルンプール日本人会の有志による津軽じょんがら節をアレンジしたダンスのほか、地元の人によるマレーダンスが披露され、日本だけではなく当地の文化も楽しめるように工夫されています。さながら、日本文化とマレーシア文化の交流祭のようです。

会場内は、どちらを向いても人、人、人。クアラルンプール日本人会、クアラルンプール日本人学校、在マレーシア日本国大使館が開催するこの恒例行事、今年は、およそ3万5,000人が来場したそうです。マレーシアの日系機関を中心とした長年の努力によるこの催事が、いまマレーシアの「夏」の風物詩となっていると感じました。



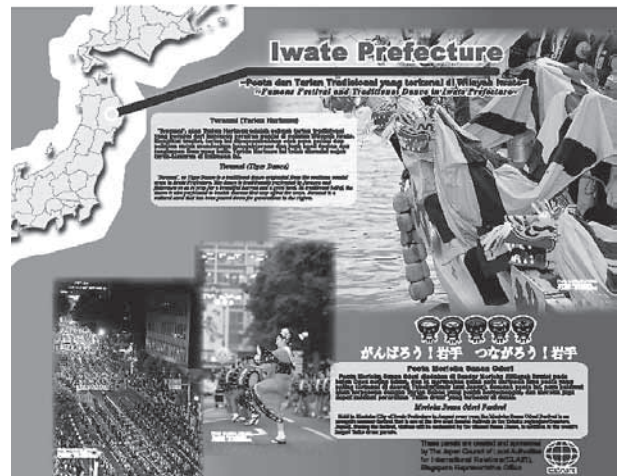
うちわを手にたくさんの人が盆踊りに夢中

「ありがとう」—感謝を込めて

今年35回目の開催となる歴史あるこの盆踊り大会ですが、今回は2011年3月に発生した東日本大震災の影響により、開催するべきかどうか迷った時期もあったといいます。地震発生以降、実行委員会の面々は、日本人として何をすべきか、繰り返し自分たちに問いかけたそうです。そして検討の結果、開催3か月前の4月、前向きなメッセージを伝えるものとして、今年も盆踊り大会を開催することにしました。そして、震災以降、マレーシアの人々から頂いた多くの思いやりの言葉や寄付などの支援に感謝を伝えるため、今年は「Arigatou Malaysia」が大会のテーマとなりました。このフレーズは、盆踊り大会のパンフレットやスタッフTシャツ、うちわなどにも記載され、会場のいたるところで見られました。

復興PRのパネル展示

今回の震災では、世界各地から日本に温かい支援が寄せられる一方で、繰り返されるニュース映像などから、暗いイメージを持ち続ける人が少なくありません。そこで当事務所では、今回の盆踊り大会において、地域支援の一環として被災地域の各支部に素材となる写真を提供いただき、この大規模な盆踊り大会にパネルとして展示し、マレーシアからの支援に謝意を表するとともに、復興PRを行いました。来場者向けメッセージと寄せ書き、そして、「元気」を伝える写真で構成され



各支部から写真素材をいただいて作成したパネル(写真は岩手県支部)

たパネルは、盆踊りの櫓と屋台スペースの間に設置され、多くの来場者が関心を寄せ、展示の前で足を止めていました。

パネルの展示場所付近には職員が常駐し、適宜来場者に対してパネルに関する説明を行いました。パネルを見た参加者からは、以下のような感想を頂きました。

- 「震災のニュース報道で地域の名前を耳にすることはあっても、各地域にどのようなものがあるのかということとはほとんど知らないので、貴重な機会だと思う。」(高校生・男性)
- 「マレーシアでも、近隣のスマトラ島(インドネシア)沖で地震があったため、津波については多くの人に関心を持っている。一日も早く、日常生活を取り戻すことを願っている。」(50代・男性)
- 「10年ほど前に仙台市に住んでいたことがあり、とても懐かしく感じた。」(40代・女性)
- 「この盆踊り大会には毎年来ていますが、日本には盆踊りだけではなく、地域毎に様々な祭りがあり、興味深い。」(20代・男性)

用意していた寄せ書きボードは、若い世代を中心として、最後には読み取れないほどたくさんのメッセージが寄せられ、「Gambatte Japan」、「我愛你 Japan」、「Japan is Best」など、日本を応援するメッセージがたくさん並びました。参加者たちは、パネルに掲げられたメッセージを熱心に読

み入ったり、思い思いにパネルの前で記念写真を撮ったりしていました。

会場に詰め掛けた来場者は、そのほとんどが現地の人々であり、熱気溢れるこの大会でのパネル展示を通じて、日本の地域の多様な魅力をマレーシアに発信できたのではないかと思います。

終わりに

震災発生以降、被災地には各国から温かい支援が寄せられ、世界とのつながりを強く実感する機会が多くありました。

シンガポールでも、連日、トップニュースとして震災のことが報道されました。タクシーに乗ると、こちらが日本人だと気付いたドライバーが心配して声をかけてくれたり、地下鉄(MRT)の構内に義援金募集の大きな看板が掲げられたり、異国の地にいるからこそ、改めて、世界の温かさを感じることもあったように思います。

当事務所では、今後も各種事業を通じて、被災地の復興に向けたその前向きな姿を発信していき、日本と各国間の理解・交流の促進を含めた地域支援に取り組んで行きたいと考えています。

被災地へ思いを馳せながら、私たち自身も、多くのチャリティイベントに参加しました。「ガンバッテ」は、もはや、世界の共通語。今回マレーシアで感じた、溢れるようなエネルギーが、どうか被災地域にも届きますように――。祭りの熱気の余韻に浸りながら、そう願ってやみません。



パネルいっぱい寄せられたメッセージ



海外生活 だより

シンガポール事務所

そうだ、買物に行こう!

～ショッピング天国シンガポール最大のセール
「Great Singapore Sale (GSS)」～

シンガポール事務所 所長補佐 片野田 拓洋(鹿児島県派遣)

シンガポールのショッピング事情

「ショッピング天国シンガポール」。これはガイドブックなどにもよく書かれているフレーズで、ショッピングはシンガポールにおける大きな娯楽のひとつとなっています。実際、シンガポールに赴任してきて、こちらの人の買い物好きには驚かされました。国中の至るところに、様々な趣向のショッピングセンター(SC)があり、週末ともなるとどこも多くの人でごった返しています。都心部にはきらびやかな高級ブランドばかりが入ったSCや日系デパートの「高島屋」「伊勢丹」などが立ち並び、郊外には端から端まで歩くのも一苦労といった大型のSCがいくつもあります。日系企業も、上記デパートのほか「ユニクロ」、「ダイソー(百円ショップ)」、「パルコ(SC)」等数多く進出しており、シンガポール人の買い物心を刺激しています。

ある調査によると、シンガポールでは90%の人が必要なものを買うためではなく、ショッピングそのものを楽しむために買い物をすると答え、25%の人が流行の服を買うことには癒し効果があると答え、12%の人が買い物は最も好きな娯楽であると答えました。

また、言うまでもなくショッピングを楽しむためには軍資金が必要ですが、シンガポールの一人当たりのGDPは日本をすでに上回っており、投資可能資産100万米ドル(約8,000万円)以上の世帯の割合は世界で一番多い15.5%という調査結果も出ています。

シンガポールの人々は「購買意欲」、「購買力」ともに豊かな国民と言えるのかもしれませんが。

また、欧米系の高級ブランドだけでなく、東南

アジアの中心に位置する貿易立国であり、周辺地域から様々なモノが入ってきていることから、外国人の観光客にとっても、シンガポールは「ショッピング天国」として魅力的な国と言えるでしょう。

Great Singapore Sale (GSS)

そんな「ショッピング天国」シンガポール最大のセールが毎年6・7月に開催される、その名も「Great Singapore Sale (GSS)」です。

これは、シンガポール小売業協会(SRA: Singapore Retailers Association)が主催し、小売店、飲食店、ホテル、アミューズメント施設等あらゆる分野の国内数千店舗が参加する一大セールで、期間中はまさに国中がセールになっていると言っても過言ではありません。

18回目を迎える今年も、5月27日から7月24日の約2カ月間華やかに開催されました。メインストリートのオーチャード・ロードをはじめとする都心の高級SC、郊外にある大型SC、HDB(シンガポール人が多く住む公団住宅)内のお店など、



高級ブランド店のセールに並ぶ人々



GSS 期間中の SC の様子



ありとあらゆるところでセールが行われ、街はショッピングを楽しむ多くの人であふれました。

GSSに参加している店舗では、商品が最大70%引きになり、日本ではあまり割引になることのない高級ブランド店でもセールが行われます。また、期間中は一部のSCで営業時間を延長したり（通常でも夜9～10時閉店のところが多いですが、この時期は遅いところでは深夜0時まで営業しています）、購入金額に応じた抽選会、購入した商品の割引率を競うイベントが行われたりするなど、買い物好きにはたまらないセール期間となります。

GSSの開催期間に併せて「Art Festival」「Food Festival」などの関連イベントも開催され、買い物以外にも楽しめるような様々な工夫が凝らされています。

また、セール自体をシンガポール政府観光局（STB: Singapore Tourism Board）が後援しており、観光客誘致のひとつの目玉ともなっています。旅行者向けの特典も多く、ホテルが特別料金を設定、買い物と観光を組み合わせたツアーの催行、航空会社の手荷物超過料金の割引、航空券やパスポートの提示による特別割引やプレゼント、GST（物品・サービス税）の払戻しを受けた人向けの抽選会などがあります。観光を主要産業のひとつとして位置づけ、STBを中心に国を挙げて観光振興を図っているシンガポールならではの取り組みと言えます。

SRAは、期間中の売上げ目標を前年実績より2億ドル（約130億円）多い55億ドル（約3,575億円）としていました。本稿執筆時点で2011年の最終売

上高は発表されていないものの、提携クレジットカードの利用額が前年比約1.5倍となっていることから、今年もかなりの売上げがあったものと推定されます。

終わりに

シンガポールの経済は大変好調で、2010年のGDP成長率は史上最高の前年比14.5%、卸売・小売業だけでみると同15.1%の伸びを記録しました。購買力の増したシンガポール国民だけでなく、経済発展の著しい中国やASEAN各国からの旅行者など、シンガポールで買物を楽しむ人は今後ますます増えることが予想されます。昨年相次いで開業した総合リゾート施設（最近、某携帯電話会社のCMで日本でも有名になったようですが）にも大型のSCが併設されており、オーチャード・ロード周辺でも建設中のSCをいくつも見かけます。

個人的には、つい財布のひもが緩みそうになるのをぐっとこらえる日々ですが、今後、「ショッピング天国シンガポール」がどのように発展していくか楽しみにしたいと思います。

最後に、ショッピング・センターを舞台にしたシンガポール映画をご紹介します。

「Gone Shopping」。買い物好きのシンガポール人女性が主人公の映画です。シンガポールのSCの様子がよくわかりますので、興味のある方はDVDショップで探してみてください。